ゼミナール紹介

担当者名	井上裕之
e-mail アドレス	inoueh@bunkyo.ac.jp
研究室	3401
在室曜日・時限	主に火曜日（２～３限）、水曜日（昼休み以降）、木曜日（昼休み以降）
個別相談など （日時・方法）	まずはメールにてお気軽にお問い合わせください。オンラインであれば、上記の日時以外も可能です。
選抜方法	定員を超えた場合は、志望書と面談等で総合的に評価・選抜します。
ゼミナールに 関連する科目	私の担当する「情報学特殊講義」（３年次）の履修をお願いしています。合わせて「文献講読」も履修すると総合的な理解ができるでしょう。
2023 年度担当科目	文章演習Ⅰ・Ⅱ　文献講読　プレゼミナール B　キャリア研究 ゼミナール　卒業研究　インターンシップ 情報学特殊講義 A（テレビニュースと放送ジャーナリズム）
授業概要	●概要 ▼本ゼミナールはジャーナリズムとことばのゼミで、「文章による情報伝達」をテーマにしています。 文章を「読み」「書き」する力は、どこにいっても必要とされます。例えば、私たちの身の回りにはさまざまな情報があふれていますが、これらを正確に読み込む力や、時には真贋を見抜く力が必要です。また、身の回りで起きた出来事や社会問題を自分で調べて文章や映像で表現していきたいと思っている人もいるでしょう。こうした人たちに本ゼミは向いています。 また、紙面、映像、WEB などさまざまな媒体で伝えられる文章について、ことばの面から研究することも対象としています。 つまり、「読む力」「書く力」「調べる力」「伝える力」を磨くことが本ゼミのテーマです。 ▼したがって、時事問題を読み解く力を養いたい人、取材する力や執筆する力を身につけたい人、そしてことばや文章に関心のある人に向いています。 ▼最終的には「卒業論文」か「卒業制作」かを選べるゼミです。 ●具体的な内容 ▼ゼミの学生は、身近な題材を取材したり記事を書いたりします（時には映像撮影もします）。市議会から大学のサークル、スポーツ、ゲームなど、様々なテーマを選んで書いています。読むとき、書くとき、伝えるときの「勘所（かんどころ）」を、実践を通して学んでいきます。また、テレビ、新聞、WEB の記事内容を比較研究したりもします（個々人の希望に合わせて柔軟に対応しています）。 ▼ジャーナリズム、言語学、メディア論だけでなく、社会学、映像学など隣接領域にも触れながら、幅広い学びをしたいと考えています。

ゼミナール紹介

担当者名	岡野雅雄
e-mail アドレス	okano@bunkyo.ac.jp
研究室	3210 室
在室曜日・時限	水曜日(午後;会議時間以外)・木曜日(1、2 時限 昼休み)　念のため、相談希望の方はまずメールにてお問合せください。
個別相談など （日時・方法）	まずメールにてお問合せください。必要に応じて、個別相談をしたいと思います。Zoom も可能です。
選抜方法	もし定員以上となったら、ゼミ内容と志願理由の適合性および成績によって選抜します。
ゼミナールに 関連する科目	コミュニケーション論基礎、言語コミュニケーション論、記号論
2023 年度担当科目	コミュニケーション論基礎、言語コミュニケーション論、記号論、基礎演習Ａ、ゼミナールⅠ・Ⅱ、卒業研究Ⅰ・Ⅱ
授業概要	◆本ゼミナールの基本的なテーマは、「言語あるいは記号によるコミュニケーション」です。 最終的な到達目標は、各自の設定したテーマについて必要な資料やデータを集めて分析し、論文を作成する能力を身につけることです。論文を作成することで、原稿用紙換算で 50 ページ以上のしっかりした文章を執筆する能力を身に着けていただきたいと思います。 「卒業研究」で論文を書くことを前提にゼミを進めてゆきますので、ゼミ選択の際には注意してください。 ◆ゼミナールの具体的な進め方は、以下のとおりです。 春学期は、コミュニケーションに関する文献を購読します。そして、その内容にもとづいて発表し、討議します。秋学期は、より卒論を意識して情報収集・購読・討議を行います。 その過程で、以下にあげるような知識・技能を身につけます。 ・レジュメ作成の方法、口頭発表の仕方、新聞・雑誌記事の検索、調査結果のまとめ方、グラフや表の作成、問題発見(リサーチ・クエスチョンの設定)、原稿執筆のためのアウトライン作成・論文の構成・校正等

ゼミナール紹介

担当者名	奥村真司
e-mail アドレス	okumuras@bunkyo.ac.jp
研究室	3307
在室曜日・時限	火曜日(2 時限)・水曜日(午後;会議時間以外)・木曜日(2,3 時限) 上記時間でも校務で不在の場合もありますので、相談および面談希望の方はまずメールにてお問合せください。
個別相談など （日時・方法）	メールにてお問合せください。
選抜方法	本ゼミ志望の方は、教員との面談を必ず受けてください。対面での個別相談を受けない学生は選抜対象外となります。 ※面談の詳細については、メールでお問い合わせください。 希望者が定員を超える場合には、志願理由書・面談の内容および成績（出席状況を含む）によって選抜します。
ゼミナールに 関連する科目	英語 IA, IIA、異文化コミュニケーション
2023 年度担当科目	英語 IA, IIA、基礎演習 A、異文化コミュニケーション、ゼミナール I,II、卒業研究 I,II
授業概要	【ゼミナールのテーマ】 「日本の文化の魅力を海外へ発信しようプロジェクト」 グローバル化が進むなか、日本文化のさまざまな側面が世界の人々に浸透しつつあります。海外の人々にとって日本の魅力とは何なのでしょうか。また、どのようなものが特に人気があるのでしょうか。 このゼミでは、日本文化の様々な側面（伝統文化、ポップカルチャー）の魅力について考えます。 具体的な活動として、自分の興味のある文化について詳細な調査を行い、SNS などを通じて海外の人々に伝えるプロジェクトを行います。

ゼミナール紹介

担当者名	勝久晴夫
e-mail アドレス	katsuhisa@bunkyo.ac.jp
研究室	3304
在室曜日・時限	火、水、木（前日までにメールにて予約）
個別相談など （日時・方法）	メールにて連絡をしてください。必要に応じて対面あるいは Zoom により、個別相談をしたいと思います。
選抜方法	ゼミ内容と志願理由の適合性および成績によって選抜します。
ゼミナールに 関連する科目	情報社会と法、現代社会と著作権
2023 年度担当科目	基礎演習 A、情報社会と法、現代社会と著作権、ゼミナール I・II
授業概要	・本ゼミナールでは、メディア表現について、著作権法を中心とした法律面から研究します。作品の制作からビジネス展開までの各場面で生じる法律問題に適切に対処できる知識と能力を持ち、戦略的に知的財産法を活用できる人材の育成に取り組みます。 近年では、作品制作の段階で AI 技術を活用することが急速に広がっているが、このような新しい技術を活用する際に生じうる法律上の問題についても研究をします。 ・著作権法等の法律の知識が不十分であることを前提に、春学期は、音楽や映画、漫画やゲームなど身近な作品を題材にして基礎的なところをレクチャーします。この期間に秋学期にゼミ報告をするテーマを選定してもらいます。 ・秋学期は、各自が選定した研究テーマについて、ゼミ発表をしてもらいます。ゼミ発表に際しては、研究テーマに関連する資料を調査した上で、「問題の所在」「法律・判例・学説等の現状」「検討」「私見」「今後の展望」という形でまとめて発表してもらいます。 ・卒業研究では、「卒業論文」を執筆し、提出してもらいます。この卒業論文の題材は、ゼミナール II でゼミ報告をしたものと同一でもいいですし、それ以外のものを新たに研究テーマとしてもいいです。 ・「論文」の形式にするために必要な手順などは卒業研究 I で解説します。 ・卒業研究 II では、卒業論文執筆のためのサポートを行います。

ゼミナール紹介

担当者名	清水一彦
e-mail アドレス	shimizu1@bunkyo.ac.jp
研究室	5404
在室曜日・時限	月曜日、火曜日、水曜日。
個別相談など （日時・方法）	月曜日 10:20～13：00、5 限終了後。火曜日、水曜日は 10：20～10：45 と昼休み。このスケジュール内で、前日までにメールでアポを取ること。 **対面での個別相談を受けない学生は選抜しません。**
選抜方法	志望書（希望理由、自己 PR など 1000 字以内）、成績、面接。
ゼミナールに 関連する科目	3 年次終了までに必修：出版論、出版文化論、記事制作Ⅰ 推奨：出版演習、写真技法、情報表現デザイン
2023 年度担当科目	出版論、出版文化論、出版演習、記事制作Ⅰ、記事制作Ⅱ、マス・コミュニケーション論、プレゼミ A
授業概要	◯将来、出版業界やメディアで仕事をしたい学生を対象としたゼミナールです。 ◯就職実績は、出版社、ウェブコンテンツ制作会社、広告会社、エディトリアルデザイン会社などです。 ◯3 年次に雑誌を作り、4 年次には卒業論文を書きます。 編集を実践し、さらに出版学分野での卒業論文を完成させ、出版社やメディア、マスコミ関連企業の就職試験で勝負ができるようにします。そのために、デジタルも含めたあらゆる出版物の制作に応用がきく雑誌つくりと、出版コンテンツの

	内容分析、出版の学術的な研究をします。多量の出版物の購読もします。雑誌・書籍購入、取材費用、そのほか体験的な学習費用はケチらないこと。自分の可能性を広げる今しかできない自己投資です。雑誌つくりや研究は本気で取り組まないと落ちこぼれます。覚悟をした上でゼミに参加してください。 2 年の冬からゼミを開始します。出版物の購読・内容分析と出版学の知識を習得しながら、各自が選んだテーマの研究プレゼンテーションをします。その後、3 年の夏前から冬にかけて、64～72 ページ程度の本格的な雑誌づくりをします。出版業界のプロに見せても恥ずかしくないレベルを目標します。企画、取材、撮影、デザイン、DTP 、執筆、印刷など、一連の編集作業をすべて学生自身でおこないます。撮影機材、デザイン用パソコンとソフト、印刷機は用意してありますが、資料購入費、取材経費、旅費・交通費などは自己負担となります。 3 年終了時までのゼミ活動の拘束時間は長くなります。雑誌つくりは週 1 回の授業時間内では終わりません。また、雑誌つくりはチームプレイです。編集技術と同時にコミュニケーション力、責任力、共感力も養います。授業時間以外にもゼミ活動があります。とくに、3 年の秋はアルバイトを極力減らすこと。 4 年生の卒業研究では、卒業論文を書きます。テーマは出版に関連することなら、産業、歴史、コンテンツ論、メディア論など幅広い範囲から各自の興味にしたがって選べます。ただし、学術論文としての完成度を求めます。1 年間じっくり研究に取り組みます。雑誌完成後から 4 年の春にかけてテーマの設定と文献購読、プレゼンテーションを経て、夏休み前に第 1 回中間発表会。夏休み明けに第２回中間発表会と草稿提出。年内に完成稿提出。年明けに研究発表会です。

ゼミナール紹介

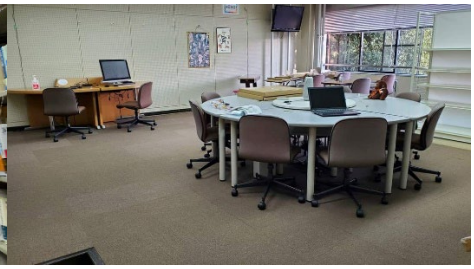
担当者名	白土由佳
e-mail アドレス	yuka@bunkyo.ac.jp
研究室	3402
在室曜日・時限	水、木、金（来訪の際は事前に連絡をください）
個別相談など （日時・方法）	ゼミナールはいつでも見学可能です。水曜 2 限に 3107 教室にいらしてください。まれにオンラインの際があるため、見学の際は事前に連絡をください。 個別相談は随時受け付けています。日程調整のためメールで連絡をください。
選抜方法	希望者が定員を上回った場合は、面談にて選抜します。
ゼミナールに 関連する科目	下記科目
2023 年度担当科目	卒業研究、ゼミナール I・II、ソーシャルメディア論、デジタルメディア論、コンテンツ発想法、プレゼミナール C、基礎演習 A
授業概要	■ 概要 本ゼミナールでは、ソーシャルリスニングというアプローチを学び、みなさんの身の回りにある様々なおもしろいことの分析を通じて、私たちは今、どのような社会に生きているのかを考えていきます。 ソーシャルリスニングとは、ソーシャルメディア上などで自然に発生した人々の会話や行動などを分析し、人々の実生活に基づいた意見を活用することです。トライアンドエラーを繰り返しながら、探索的なデータ分析を楽しんでいきましょう。 ■ 到達目標 ・ R や GoogleColaboratory、KHCoder など、データ分析ツールが使用できる。 ・ ソーシャルリスニングの一連の流れを理解し、実践することができる。 ■ スケジュールと研究テーマ例 <u>3 年生</u>:春学期は、毎年任意のテーマに基づき実践的にソーシャルリスニングの流れを学びます。秋学期は、毎年 1 月頃に開催される学会の学生教育研究部会（他大学と合同の研究発表会）を目指してグループ研究に取り組みます。4 年生の卒業研究の中間・期末発表にも参加します。 ・ 脱プラ活動における国民の反応ーTwitter と Instagram の比較からー ・ コロナ禍の漫画に対する関わりの変化ー鬼滅の刃から読み取るー ・ SNS とファンコミュニティにみる現代アイドルの実態分析 ・ 実況者とそのファンの関わり方 <u>4 年生</u>:卒業研究と、3 年生へのアドバイザーとしてグループ研究をサポートします。 ・ 洒落怖と怪談話における構成の違い ・ ライブ内容と環境に依る受け手の変化と違い ・ 実況ツイートにおけるスポーツと e スポーツ ・ 若者とインターネットスラングの使用状況について

ゼミナール紹介

担当者名	竹林 紀雄
e-mail アドレス	noritake@bunkyo.ac.jp
研究室	3411
在室曜日・時限	担当科目が多く、連続しているためは不在の場合が多いので、**相談希望の方は個別相談会に参加してください。**
個別相談など （日時・方法）	○ゼミ見学会－9 月 27 日（水）、10 月 4 日（水）、10 月 18 日（水）3 限目は TV スタジオでのゼミ活動を見学できます。 ○ゼミ映像作品上映会－10 月 3 日～10 月 20 日の昼休み、3114 教室 ※予約必要なし、上映スケジュールの詳細は 10 月以降に 3114 教室入口に掲示 ○個別相談会－希望者には個別に相談を受けます。※希望者数によって日程調整 **※ゼミ見学会、個別相談会を希望する場合はメールで申し込んでください。**
選抜方法	面接や簡単な試験等により選抜します。
ゼミナールに 関連する科目	3 セメスターまで ○演習系科目 **「映像表現Ⅰ」、**「映像ポストプロダクション演習」、「映像技術演習」、「テレビ企画構想演習」、 4 セメスター以降 ○演習系科目 **「映像表現Ⅱ」、**「テレビ番組制作（スタジオ)」、「アニメーション制作 C（アート表現)」、「アート映像論」 ○講義系科目 「ドキュメンタリー論」、「映画史」、「映像表現論」、「映像プロデュース論」 **※ゼミ選択までに「映像表現Ⅰ」、「映像表現Ⅱ」、「映像編集演習」等の竹林ゼミの履修に必要な専門科目を履修できていない志望者は、個別相談会で竹林に相談をしてください。**
2023 年度担当科目	**春学期** 「卒業研究Ⅰ」、「ゼミナールⅠ」、「映像表現Ⅰ」、「ドキュメンタリー論」、「放送論」、「テレビ企画構想演習」、「映像プロデュース論」「映像メディア特論」（大学院)、「情報学特別演習Ⅰ」（大学院） **秋学期** 「卒業研究Ⅱ」、「ゼミナールⅡ」、「映像表現Ⅱ」、「映像メディア論」、「映像表現論」、「映画史」、「スタジオ番組制作」
授業概要	竹林ゼミナールでは、テレビや映画を網羅した映像業界と連携し、プロフェッショナル育成を視野に入れた映像表現教育を行う。具体的には、様々なジャンルの独創的な映像作品を鑑賞し、映像表現への理解を深めると共に、映像作品の制作に取り組む。課題作品の制作に臨むにあたってゼミ生に求めるのは、これを課題として捉えるのではなく、対外的にも「作品」として主張できるものを手掛ける姿勢をもつことである。優れた作品は、映画祭や映像フェスティバルに積極的に橋渡しをする。 ゼミの課外活動としては、日本テレビやフジテレビ等で行うテレビ局研修。テレビ局内の様々な放送施設を見学し、局内のスタジオやサブルームで生放送番組を体感す

	る研修である。映画業界を志望する者に向けては東映大泉撮影所で行う映画撮影所研修。撮影所のスタジオで行われる映画やドラマの撮影を体感し、編集スタジオでSFX（特殊効果）やVFX（視覚効果）等を実践的に学ぶ。 　また、ゼミ生全員参加で毎年実施する合宿形式の研修う。本年度はゼミ生全員で隔年開催の山形国際ドキュメンタリー映画祭に参加する。 　この他にも、主に都内での映像作品の鑑賞や映像フェスティバルへの参加、またテレビ業界や映画業界の第一線で活躍する方々との交流も予定している。 　さらに、学外での取材・ロケの実習を日常的に行う。このように、ゼミ活動に時間を要するので、部活動やサークル、アルバイトなどで忙しい人には向かないゼミである。

ゼミナール紹介

担当者名	日吉　昭彦
e-mail アドレス	hiyoshi@bunkyo.ac.jp
研究室	5405（日吉研究室）は左のような感じ。テレビが 16 台あり、地上波と BS デジタル放送を全チャンネル同時に見れますよ。また、一部、プレゼミで紹介しましたが、昨年度からフォーカス・グループ・インタビュー専用のスタジオを設計したので、ゼミを中心に活用しています。写真右側です。  在室曜限にはどうぞ研究室にお気軽に入室ください。相談いつでも受け付けます。
在室曜日・時限	火曜（3 限＆4 限は授業）・水曜（1＆2 限はゼミ、午後は会議）・木曜（1 限＆3 限は授業）に大学にいます。授業後や放課後はたいてい研究室にいますので、アポなしで気軽に研究室（5405）を訪問ください。いつでも個別相談にのります。ただし、メールで予約があれば確実です。水曜午後は会議が不定なのでメール予約が確実。火曜午前も同様です。希望があれば右のＱＲコードのＵＲＬで google MEET でも対応も可能です。
個別相談など（日時・場所）	個別の相談は上のとおりです。 しかし、募集期間中の「水曜２限」は、基本的に対面でゼミを実施しています。ゼミ教室を気軽に訪問してください。いつでもゼミ見学が可能です。予約不要です。ゼミは 5301 教室（上のグルイン・スタジオ）で実施しています。先輩の話も聞けるかも。
選抜方法	定員を超えた場合は、プレゼンテーション等を行う予定です。詳しくは別途連絡します。 （なお、メディア表現学科以外の方は、エントリー前に、必ず事前相談してください。また、エントリーした場合は、必ずプレゼンテーション等が行われます）
ゼミナールに関連する科目	社会調査士関連科目やメディア効果論などは取得しておくと役立つでしょう。ただし必須なわけではありません。あと社会学概論も(^^)v
2023 年度担当科目	社会学概論　メディア社会学　社会調査論　メディア調査研究法Ｃ メディア効果論　プレゼミナールＢ　ゼミナール　卒業研究　大学院
授業概要	本ゼミナールは、メディア社会学やマス・コミュニケーション論、メディア文化論などの分野を専門としたいみなさんと、さまざまなメディア研究を行うゼミです。 ゼミでは研究方法として「質的調査研究法」という方法を採用しています。質的方法には、聞き取り調査やインタビュー、フィードワーク、メディア分析などがあります。また、映像のミクロ分析やメディアの効果測定、マーケティングでのフォーカス・グループ・インタビューなども含まれます。 そこで、春セメでは１対１のインタビューを用いた取材の仕方を、秋セメでは専用スタジオを用いて「フォーカス・グループ・インタビュー」について、専門的にかつ体験的に学びます。社会で実際に広告業界やマーケティング、企業の商品・サービス開発などで使われている技法を身に付けます。 その一方、春秋セメを通じてみなさんから調査企画を募集し、調査プロジェクトを一つ立ち上げ、「質的調査研究法」をさまざまに用いたメディア研究を行います。過去にはメディアによる地域活性化について、フィールドワークを通じて行った研究などが多く行われています。

ゼミナール紹介

担当者名	**藤掛正邦**
e-mail アドレス	fujikake@bunkyo.ac.jp
研究室	5407
在室曜日・時限	月(昼休 or 4 限)・水(昼休)
個別相談など （日時・方法）	個別相談日:月(昼休 or 4 限)・水(昼休) 5407 研究室。必要に応じて個別相談をします、メールにてお問合せください。ゼミ見学日:毎週水 2 限 7201 教室(後)入出自由。
選抜方法	希望者が定員を上回った場合の選抜方法は、志望理由書、GPA 値、藤掛制作授業ベスト 3 作品提出、個人面談などで選抜します。
ゼミナールに 関連する科目	修得しておいた方が好ましい科目は、技術を学べる「情報表現デザイン」「プレゼミナール A」。発想を学べる「広告表現Ⅰ」「広告表現Ⅱ」。知識を学べる「デザイン論」
2023 年度担当科目	春：情報表現デザイン、広告表現Ⅱ、ゼミナールⅠ、卒業研究Ⅰ、広告企画演習。 秋：広告表現Ⅰ、プレゼミナール A、ゼミナールⅡ、卒業研究Ⅱ、デザイン論
授業概要	本ゼミナールは、取材・撮影をして広告表現や編集デザイン制作を身に付けます。 春「ゼミナールⅠ」・「卒業研究Ⅰ」 本ゼミナールは、茅ヶ崎市私立幼稚園協会主催「ようちえんフェス」から、2024 年 PR ポスター制作を依頼されています。2023 年度は、藤掛ゼミ 3・4 年生が聖鳩幼稚園に出かけ、園児と絵本読み聞かせ交流、iPad お絵描き交流後、園内で園児たちを撮影し PR ポスターを制作しました。2024 年に取材撮影する幼稚園は平和学園幼稚園の予定。 ・平和学園幼稚園は、幼・小・中・高と続く大きな学園 ・教育コンセプトは、3 つのたいせつ・3 つの自立（あそぶ・つくる・感謝する） ・学外実習内容:数回の園児との交流で園児(5 歳)の緊張を解き、その後取材・撮影実施 ・制作課題:1.PR ポスター、2.ロゴマーク、3.園児たちを描いたイラスト 秋「ゼミナールⅡ」 本ゼミナールは、公益財団法人岡田茂吉美術文化財団が運営する熱海市の MOA 美術館に学外実習し「見たまま・感じたまま」を冊子編集デザインします。MOA 美術館のメインロビーからの眺望は熱海随一の絶景です。相模湾に浮かぶ初島や伊豆大島、房総半島から三浦半島、伊豆半島まで 180 度の大パノラマを眺望できます。入口から本館へ行く際の総延長約 200mのエスカレーターは有名でその長さと近未来的なデザインに驚かされる。美術館は山水の美に囲まれた一大芸術郷で、まさに「海の見える天空のオアシス」です。 ・課題：1.MOA 美術館の建物・設備、2.美術品・企画展、3.光琳屋敷・日本庭園の日本文化を観覧し 3 枚の見開き誌面と表紙デザインを制作する。全誌面を厳選し冊子製本印刷します。4.MOA 周辺の見開き誌面デザインを行う。2023 年度はコロナ渦も落ち着いてきたので、熱海港からフェリーで海を渡り、首都圏から一番近い離島「初島」のアジアンガーデンなどを 1 枚の見開き誌面を制作する予定です。 秋「卒業研究Ⅱ」 本ゼミナールの課題は、個人でテーマを決め制作する「自由冊子誌面デザイン」（5 見開き誌面程度)、同テーマで「自由広告表現」(1 見開き誌面)です。

ゼミナール紹介

担当者名	村井 睦
e-mail アドレス	https://sites.google.com/a/shonan.bunkyo.ac.jp/murai/ を確認
研究室	3409
在室曜日・時限	https://sites.google.com/a/shonan.bunkyo.ac.jp/murai/ の office hour を確認
個別説明会 （日時・場所）	説明会はおこないません。 ゼミの説明を希望する皆さんへは zoom で個別面談をおこないます。 ＊メールにてアポを取って下さい。
ゼミ見学可能日 （日時・場所）	教室などの詳細は未定のためメールにて連絡してください。
選抜方法	選抜方法は面接や GPA などを総合的評価し選抜します。
ゼミナールに 関連する科目	なし
2023 年度担当科目	基礎演習 B、インタラクティブメディア概論、情報表現デザイン、ミュージックビデオ制作 A、動画配信演習、Web デザイン
授業概要	本ゼミナールでは、新しい技術を積極的に取り入れ、旧来からの表現の枠にとらわれない新しい視覚伝達の領域を模索していく。映像・紙・Web などのメディアを横断的に学ぶ事により総合的な表現力や情報発信力を習得する事を目的とする。またグループワークを多く取り入れてコミュニケーション能力を高める事も重要な学習目的となる。 ＊詳細は下記を参照してください。 https://sites.google.com/a/shonan.bunkyo.ac.jp/murai/

ゼミナール紹介

担当者名	ボブ田中
e-mail アドレス	bobtanak@bunkyo.ac.jp
研究室	3404
在室曜日・時限	基本は月曜日、水曜日、金曜日の午後、在校しています。
個別相談など （日時・方法）	ゼミ見学と個別面談を希望する際は、事前にメールで連絡をください。 ■ゼミ見学 毎週水曜日2 限10:50～12:20 です。 一度見学することをお勧めします。 ■個別面談 ゼミ希望者は必ず「個別面談」を受けてください。基本は対面で行います。
選抜方法	希望者が定員を上回った場合は、面談結果と成績をベースに選抜します。
ゼミナールに 関連する科目	ボブ田中が主担当する科目全般 特に、コミュニケーションプランニング
2023 年度担当科目	広告概論、コミュニケーションプランニング、テレビコマーシャル論、コミュニケーションメディア論、マーケティングコミュニケーション、企画書の書き方とプレゼンテーション、プレゼミナールA、ゼミナールⅠ・Ⅱ
授業概要	■テーマ：「課題発見と解決を行う実践型コミュニケーション」 ■概要：実際の企業や社会の課題に対して、コミュニケーション視点で解決策を考え実施することを目指します。❶情報収集と分析、❷課題発見、❸アイデア拡散と収束、❹論理的なストーリー構築、❺企画書作成、❻プレゼンテーション、❼実施制作進行管理などの一連の流れの中で、社会で生き抜くコミュニケーション力も養っていきます。ゴールは、卒業時に社会でも通用する企画書が書けることです。 ■ゼミナールⅠ・Ⅱ（3 年次）：企業からのオリエンテーションを受け、複数の「チーム」で課題発見と解決策を考え、企業担当者にプレゼンまで行います。2023 年度は、「花王」から商品提供を受け、使用体験をベースにプロモーション企画のプレゼンテーションを行いました。 ■卒業研究（4 年次）：「個人」でプロジェクトを立ち上げ実践します。論文執筆はありませんが、社会でも通用する緻密な企画書作成とその実践が求められます。 ■合宿研修：3年と4年のゼミ生合同で、地方の企業訪問や現場視察を目的とした宿泊を伴う研修を行います。 2023年度は山形の畜産農家を訪問しイベント企画と実施を行いました。 ■就職活動：広告会社（マスメディア・デジタル）やイベント企画会社などへの就職が多いです。随時、個別に就職面談を行います。また、ゼミで自身が書いた企画書を武器に就活にのぞんでもらいます。 ■その他：やるべきことが多いので、授業時間外にチーム及び個人の両方において多くの課外活動が求められます。チームのメンバーと協力して活動ができるコミュニケーション力のある人、ゼミで精一杯頑張りたいと思う人、待ってます。時間管理に重点を置いていますので、遅刻する人や1 回くらい休んでもいいと思う人には向いていません。